



輝け！ OKB517



471名+教職員46名

合意形成のある話合い

校長 山本 邦彦

校庭の木々が葉を落とし始め、朝晩の寒さが少しずつ身に染みる季節となってまいりました。先月行われた学習発表会には、たくさんの保護者の皆様に参観いただき、ありがとうございました。今後も子供たちが生き生きと活躍できる場を支援してまいります。

先日、1年生教室で学級会が開かれていました。議題は「ころぼかばか集会ですることを決めよう」で、一人一人が提案した遊びの中からみんなで楽しむ活動を決める話合いでした。始めは、自分や友達が提案した遊びのよいところや問題点についての意見交換です。「ドッジボールは当たると悔しいけれど、外野からたくさんボールを投げられるから楽しいです。」「爆弾ゲームは、最後に爆弾をもった人が抜けなくてはいけなくなるので反対です。」提案した活動内容の善し悪しを話し合うのに真剣です。司会者は、まだ意見を出していない少数派の遊びを提案した人にも意見を求めています。そして、いよいよ活動を決める話合いの時間になりました。司会者が「反対意見が少なかった遊びが安心して遊べると思いますが、どうですか。」と提案しました。すると「まだやったことのない遊びもやってみたいです。」といった意見が出され、また活発な話合いが続きました。最後の候補に残った活動は「猛獣狩りゲーム」「爆弾ゲーム」「ドッジボール」「ジャンケン列車」でした。「30分で4つのゲームですね。もう少しみんなで相談していきましょう。」という担任の声かけに、全員が満足そうにうなずいていました。

今年度、本校が研究推進校として取り組んでいる特別活動では、課題解決に向けて、よりよい合意形成や意思決定を図る話合い活動について研究を進めています。「合意形成」とは、ステークホルダー（多様な利害関係者）の意見の一致を図ること。特に議論などを通じて、関係者の根底にある多様な価値を顕在化させ、意思決定において相互の意見の一致を図る過程のことです（ウィキペディアより）。学級会においては、多様な意見を分類・整理しながら比べ合い、提案理由に合っているか、少数意見も大切にしているかなどの観点から話し合い、意見の違いを認め合いながら、よりよい考えを見いだすための時間となります。全員の意見を尊重した合意形成や意思決定を図る話合いをねらい通りに進めることは簡単なことではありません。大人である私たちも多様な価値観や経験値に基づく意見をまとめることは大変です。そんな中で、1年生が一人一人の意見を大切にしながら自信をもって話し合い進めていく姿に感心しました。1年生のみならず、どの学級でもいろいろな場面で話合い活動を積み重ね、合意形成に至るまで時間がかかったり、全員が納得できない状態で終わったりする時もありますが、子供たち自身が、話し合っただけで決めることのよさを実感している姿がたくさん見られることをうれしく思います。

更に話合いを進めた1年生は、学年で「猛獣狩りゲーム」を実際に行う体験を通して、楽しかったことやもっと工夫したいことを考え、次の活動に向かっていきます。次はどんな合意形成に至る話合いになるのか楽しみです。